

平成 23 (' 11) 10 / 25

第 6 8 号

火事と救急は

局番なし 119 番



発 行

吹田市防火連合会

吹田市江坂町 1 丁目 2 1 - 6

吹田市消防本部内

電話 (06) 6193-0119 (代表)

平成 2 3 年度全国統一防火標語

「消したはず 決めつけしないで もう一度」



救急実践訓練

あとはだめ いますぐやろう 火の始末

(平成 2 2 年度 防火作品 標語の部)

吹田市防火連合会会長就任ご挨拶



吹田市防火連合会の皆様並びに関係各位におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は本会の事業推進にご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

吹田市防火連合会 会長 金谷 高 義

私は、このたび吹田市防火連合会会長の重責を担うことになりました。もとより微力ではございますが、前会長の市川様同様、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、去る3月11日発生した東北地方太平洋沖地震は、日本の地震観測史上最大規模のマグニチュード9.0、最大震度は震度7を記録したものであり、今なお、これに起因する余震が発生している状況です。また、この地震及び地震によって引起された津波により、1万5千人を超える尊い命が失われ、現在も、多数の行方不明者がおられます。ここに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

幸い本市におきましては、ここ数年特筆した災害はありませんが、災害はいつ、どこで、どの様な形で発生するか予測が困難であります。今後は、発生する確率の高い、東海地震、南海地震、東南海地震などの大規模地震に対する備え、対策も十分整えておかななくてはなりません。

こうした災害時の被害を減少させるためには、国民一人ひとりや地域、事業所、行政それぞれの防災力の向上とともに、相互の連携が必要であり、事業所の果たす役割も益々、重要性を増しています。

吹田市防火連合会におきましては、今後も消防本部と連携し、企業内での訓練や防災教育といった事業の推進を図ってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

◎吹田市防火連合会名簿◎

※敬称略

役 職	氏 名	事 業 所 名 等	所 属
相 談 役	井 上 哲 也	吹田市長	
”	松 中 唯 人	吹田市消防長	
会 長	金 谷 高 義	アサヒビール(株) 吹田工場	工危・会長
副 会 長	橋 本 治	橋本建設(株)	建設・会長
会 計 監 査	日 向 伸	山文油化(株) 吹田工場	工危・副会長
会 員	山 田 寿 一	D I C(株) 吹田工場	工危・副会長
”	西 林 秀 幸	(株)日本触媒 吹田工場	工危・副会長
”	天 野 正 夫	(株)NEOMAX マテリアル	工危・副会長
”	紙 谷 和 典	日本推進建設(株)	建設・副会長
”	田 中 敏 之	栄電気(株)	建設・副会長
”	中 村 英 夫	(株)江坂設備工業	建設・副会長
”	渡 邊 眞	(株)ワタナベ	建設・副会長
”	市 川 盛 壽	豊津振興市場協同組合	公衆・会長
”	石 井 章 雄	サニーストンホテル	公衆・副会長
”	川 野 正 善	吹田市千里市場商店会 協同組合	公衆・副会長
”	木 村 友 彦	クラブ・アルドレー	公衆・副会長
”	阪 本 緑	吹田市家庭防火クラブ 連絡協議会(上山手町)	家庭・会長
”	笹 川 順 子	吹田市家庭防火クラブ 連絡協議会(川面町)	家庭・副会長

工危……吹田市工場危険物防火協会

建設……吹田市建設業防火協会

公衆……吹田市公衆集合場防火協会

家庭……吹田市家庭防火クラブ連絡協議会

◆ 大阪府危険物安全大会 ◆

平成 23 年 6 月 10 日（金）、大阪市中央区馬場町の KKR ホテルオオサカで行われた大阪府危険物安全大会で優良危険物関係事業所として、吹田市工場危険物防火協会所属の株式会社日本触媒吹田工場が表彰され、同社の谷川法幸氏が大阪府知事感謝状の贈呈を受けました。

また、大阪府危険物安全協会理事長から優良危険物事業所として、西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部吹田工場が表彰され、同社の堀 保史氏が表彰状を受けました。



左から松中消防長、谷川氏、金谷会長、堀氏

◆ 表 彰 ◆

【市民表彰（初期消火）】

平成 23 年 6 月 21 日（火）に吹田市南吹田 3 丁目で発生した建物火災において、付近をバイクで走行中の恵美弘氏は火災を早期に発見、迅速的確な初期消火により延焼拡大を阻止し、被害を最小限にとどめた功績。

【市民表彰（初期消火）】

平成 23 年 7 月 31 日（日）に吹田市高野台 5 丁目で発生した建物火災において、付近を車で走行中の杉野英里氏と杉野佳士朗氏の姉弟及び付近住民は、火災を早期に発見し 119 番通報するとともに、迅速的確な初期消火により延焼拡大を阻止し、被害を最小限にとどめた功績。



恵美 弘氏

◆ 幼年消防クラブ結成 ◆

市内で 26、27 番目の幼年消防クラブとして、吹田市立山田第一幼稚園と吹田市立山田第三幼稚園に幼年消防クラブが結成され、平成 23 年 6 月 12 日（日）と 6 月 14 日（火）の両日、東消防署の高松署長から法被が、吹田市防火連合会からペナントが贈呈されました。



山田第一幼稚園



山田第三幼稚園

東北太平洋沖地震に伴う緊急消防援助隊大阪府隊手記

南消防署

消防司令補 川辺 貴則

標題： 祈りと誓い

2011年3月11日、その日私は管内の事業所での消防訓練指導のため、はしご車分隊の隊長として出動していた。ちょうど、はしご車の訓練が終わろうとした頃、本部指令センターから「訓練を終了し直ちに帰署せよ。」との無線指令。あわてて署に帰ってみると、東北地方で大きな地震が発生していることを初めて知り、事の重大さに気づいた。

我々の頭に「出動」の二文字がよぎった。その直後、本部から「緊急消防援助隊出動準備をせよ。」との指示。事態の全容が把握しきれないままポンプ車での出動態勢、個人装備品等の準備を始めた。最終的に緊急消防援助隊出動命令、内容は「大阪府隊として出動、活動の場所は東京方面。1時間以内に集結せよ。」であった。日の暮れかけた千里万博公園、次々に集まってくる消防車両。すべての車両が一列に連なり名神高速道路を赤色灯の眩い光とサイレンの音を響かせ目的地へ向う。静岡を過ぎて、最終目的地は東北の岩手県に決定した。11日の20時45分に出発、およそ30時間を費やし岩手県に到着。2時間ほどの休息の後、災害現場に向かう。消防車が通るとき沿道には、我々にお辞儀や、祈るように手を合わせ、拝む市民の人々が認められた。乗組員全員言葉には出さないが、その眼には車で30時間走り続けてきた疲れは感じられず、「やるぞ。」の使命感に満ちていた。

府隊長から、我々は釜石市から数km先の大槌町へ行き救助活動を行う、との説明があった。ただ、大槌町は壊滅状態で車両は近づけないため必要な装備品を持ち徒歩で山を越えていかなければならない。府隊長の言葉通り町は津波によりほとんどの建物は流され、本来の建物の位置も、道路も見分けがつかない状態で、周辺の山では山火が発生し、焼け落ちた建物の一部にはまだ残り火がくすぶっていた。全員、信じがたい光景に言葉を失った。

府隊長の指揮の下、各市の救助隊に続き消防隊も救助活動を行った。津波により打ち上げられたヘドロ状の泥が乾燥し、強風とともに我々に容赦なく打ち付け目を開けるのも困難な状態であった。崩れ落ちた家屋のトタンや瓦礫を取り除こうとするが、一人の力ではどうにもならず、数人で力を合わせ一枚一枚はがすようにして、生存者を捜した。このような大きな災害現場ではあまりに無力な人間の力を感じた。しかし、僅かな力でも全力で、時間のある限り災害と向き合い何かを成し遂げること。我々に希望を寄せる人がいる限り諦めない。それが大事だと改めて気づかされた。

若い消防士の中には阪神大震災も記憶に無い者もいる。今回派遣された私たちの使命は、今後新たな大災害においても今回の経験を生かし、伝えて今後の消防活動に役立てていくことを誓い、日々の訓練等に心血を注いでいく覚悟である。

救急救助課

消防司令補 池田 雅彰

標題： 水門の残像

平成23年3月11日、その日も救助大会のための仮設訓練塔を設営しているときに、この千年に一度といわれる未曾有の大災害が発生した。指令センターからの放送で東北地方で強い地震が発生し吹田市内でも震度2を観測との一報を受ける。その後、非番、週休者の自宅待機命令を受け、作業を中断し庁舎内へ入ると課長室のTVから現地の様子が刻々と映し出され、尋常ではない被害の状況と大津波の凄まじい破壊力を目の当たりにすることになった。そうこうしてる間に緊急消防援助隊出動準備の指令が流れた。この日の10日ほど前、緊急消防援助隊大阪府隊の訓練説明会及び研修会があり、緊急消防援助隊派遣地は大阪府隊としての東限は埼玉県であり、西日本と東日本に区分しているので大阪府隊が東日本へ出動することは無いものと思い込んでいた。この時点の派遣先は和歌山県であった。19時17分、緊急消防援助隊出動指令、20時30分までに集結場所（万博公園東駐車場）へ集結要請、派遣先は和歌山県から東京方面へ変更との事、「東京方面？」「埼玉県に行くのか、いや、千葉県の被害も大きいから千葉県か。」などと思いを馳せながら集結場所へ。20時45分、万博公園東駐車場を約50台の消防車や救急車が出発、サイレン吹鳴、赤色灯点灯し名神高速道路へ吸い込まれて行く。

「あの、向こうの方に見える水門を、津波が越えてきたんです。」これは大阪を出発して約40時間後の3月13日、岩手県の大槌町の災害現場で救助・検索活動を開始して被災者の方から最初に状況を聴取したときに帰ってきた答えだった。その水門は跡形も無く破壊された街の3km先に見え、周りの状況とその水門だけ建っている姿がこの災害現場の異様さを物語っていて、今でもその光景が脳裏に焼きついている。活動の結果、2日間で5人のご遺体を発見したが、生存者を救出するには至らず派遣の成果が無かったように思われるところだが、発災して40時間後に大阪から1000キロ離れた現場に駆けつけ活動している事に意義があるのだ。それは、岩手県に入り国道を緊急走行中、沿道の住宅で復旧作業を行っている住民の方々が、その作業の手を止めてまで、我々、消防の車列に向かって深々と頭を下げている姿を見たときにそう思ったのである。消防隊が行くことにより、少しでも生きる勇気と生きるための安心を与えることができ、また、そのことにより被災された方の心の救助ができたのである。

想定外の災害が発生し、想定外の災害派遣があり、想定外ばかりで対応が後手後手に回った感があるが、この災害を通して感じたことは、地震や津波などの事象の規模を想定するばかりではなく、最悪の被害を予測して災害に対応することも考え、万全の備えをしていかなければならないと言うことであった。

最後に、この震災で亡くなられた方々の御霊に哀悼の意を示すとともに、被災地域の日でも早い復興を心から祈るばかりです。また、今回の派遣に際し、留守宅の家族にまで心遣いをしていただいた上司及び同僚の方々、留守宅を守ってくれた家族に感謝いたします。そして、何よりも過酷な環境に耐え、献身的に活動し任務を遂行してくれた当小隊の隊員4名に最大の感謝をする次第です。

事業所訪問

藤井電気工事株式会社

当社は昭和43年3月 吹田市泉町
(メイシアターの南側)で創業以来、
現在まで44期に渡って電気工事業
一筋で営業してまいりました。

創業当時は当社周辺も発展途上
で阪急電車の吹田駅西側踏切が残
っている時代でした。



その後、地域の発展と共に、わが社も設計、施工、管理を幅広く手がける電気工事会社に成長し、



当初15名だった社員も今では、40名
を超えるまでに至っております。

わが社のモットーは「より良く確かな
仕事でお客様に喜んで頂ける」ことであ
り、常々品質の向上と安全で効率の良い
工事を行う事に努めてまいりましたが、
よりお客様に満足をして頂くシステムを
構築するべく、2003年8月には

「ISO9001.2000」の認証を取得し、益々の向上改善を進めております。

「確かな技術」でお客様の様々な要望にお応えし、安心して完成工事の受領をして頂けるよう、また
地域社会に貢献できるよう努めてまいります。

◆ 吹田まつり ◆

平成23年7月30日(土)及び31日(日)の両日、毎年恒例の吹田まつりが開催され、31日(日)の本祭りには、旭通りにおいてパレードが実施されました。

猛暑の中、消防音楽隊に続き吹田市家庭防火クラブ連絡協議会の会員57名も法被姿も凛々しく、「家庭防火はみんなの手で！」を市民にアピールし、パレードを行いました。



吹田市家庭防火クラブ連絡協議会

◆ テニス大会優勝 ◆

平成23年6月29日(水) テニスクラブ・コスパ神崎川において、第26回大阪府下消防職員硬式テニス大会が63組126名の参加で開催され、本市消防本部から東消防署勤務の安庭士長と伊藤消防士が出場しました。昨年も優勝し連覇の懸かる両名は、決勝戦で大阪市消防局チームと熱戦の末勝利し、みごと優勝しました。(所属は当時)



左から安庭士長、伊藤消防士

◆ 消防防災フェスティバル ◆

平成23年9月10日(土)吹田市立桃山台小学校において、桃山台自治団体協議会・桃山地区防災委員会他が主催した「消防防災フェスティバル」が開催されました。

フェスティバルは、安心安全室の防災講演のほか、消防音楽隊の演奏、北消防署による煙体験、消防車両の展示、煙体験ハウス、水消火器による初期消火の体験などのコーナーが設けられ、賑わいを見せました。



消防車両展示コーナー

◆ たそがれコンサート ◆

平成23年8月12日(金)午後6時30分から豊中市新千里東町のセルシー広場において、吹田市消防音楽隊と豊中市消防音楽隊合同の演奏会が開催されました。

この合同演奏会は、地域の方々に夏の夕べをプラスバンドの演奏で楽しんでいただくために毎年行われているもので、オープニングの「ウィーアー」からアンコール曲の「ポニーテールとシュシュ&会いたかった」まで7曲を演奏し、観客の皆様から盛大な拍手を受けました。



たそがれコンサートの様子

◆ J:COM 関西新番組スタート ◆

平成 23 年 7 月から J:COM 関西の番組改編に伴い、新番組「やっぱ地元っ SHOW! 03 ステーション」がスタートしました。番組内の消防コーナーで、毎月第 3 週目の水曜日から 1 週間を本市消防本部が担当することになり、7 月 20 日（水）からの第 1 回目の放送に向け、7 月 12 日（火）に出演者の予防課湯浅予防危険物係長の VTR 収録が消防本部で行われました。今後は、各課（署）輪番で番組を担当します。



◆ FM 千里 83.7MHz 生出演 ◆

平成 23 年 8 月 20 日（土）に毎週土曜日の午前 10 時から午後 1 時まで生放送されている、FM 千里「青ちゃんのサタデーパーク」内の「飛び出せ! のりん隊」のコーナーで、本市消防本部が実施していた熱中症シェルターの取材をキッズリポーターの荒木めりんさんがリポートしました。当日は、研修室に設けられた熱中症シェルター内でシェルター当番の予防課原田士長が、キッズリポーターからのインタビューを受けました。



◆ 安全運転基本訓練 ◆

平成 23 年 6 月 27 日（月）から 7 月 4 日（月）までの内 6 日間、南吹田下水処理場において、延べ救急隊 11 隊、救助隊 4 隊、ポンプ車分隊 10 隊、タンク車分隊 12 隊が参加し、事故防止対策の一環として、常に危険な場面に遭遇する消防車両の運転に対し、運転技術、知識及び車両特徴の習得、乗組員全員の意思疎通と協力体制を構築するために新たな取組みとして、「平成 23 年度安全運転基本訓練」を実施しました。



◆ 救急実践訓練 ◆

平成 23 年 9 月 8 日（木）、9 日（金）の両日、中消防庁舎において全救急隊（各日 7 隊）が参加し、日ごろの現場活動や訓練を通じて培われた知識、判断、救急救命処置の習熟度を発表し、専門医師の評価を得て、今後の救急活動に反映させるとともに、隊員間の連携活動及び現場での必要な判断力の向上を図るため、複数傷病者、内疾患、多数傷病者の症例を想定し、平成 23 年度救急実践訓練を実施しました。

